

■■子供にはとてもキツイよコミケット■■

コミケット参加者の年齢層が上がっていくに従って子供連れでの参加者も増加傾向にあるようだが、高い気温と湿度、混みあった会場は幼い子供にとって非常に過酷な環境と言わざるを得ない。

会場内ではベビーカーは使用できないから子供も荷物も自分で運ぶしかないし、トイレも非常に混み合う。授乳やおムツを交換できる場所や、ゆっくり食事を摂ったり休憩させられる場所もほとんど無い。連れて来る側の親にとっても、極めて負担が大きいのだ。子供に振り回されたあげく親の方が先に体調を崩して動けなくなってしまうということも十分に考えられる。

コミケットはあくまでお祭り、楽しむ場であって、参加する義務があるものではない。親の楽しみのために”行ってみればなんとかなるだろう”という安易な考えで子供を会場に同行させ、様々な我慢を強いるのは、残念ながらエゴと誹られても仕方がない行為だ。

子供が乳幼児であれ小学生であれ、コミケットの会場に連れて来るのは本当に最後の選択肢としてほしい。もし万一のことがあった場合、自分の意志で参加している参加者以上に、**連れて来られた子供の事故は大事になる**、ということも頭に置いておく必要があるだろう。

そして、それでもどうしても連れて来ざるを得ないとしても、着替え、陽射しや暑さ対策、水分補給や食事の用意、疲労対策などをできる限り行い、その上で以下の五ヶ条を守るよう心がけ、できるだけ短時間で会場を出ること。我慢すべきは子供ではなく親の側なのだ。

●どうしても子連れ参加する場合の心得

- 一、朝食を摂らせ、できるだけ午後から来場する。
- 二、長時間に及ぶ販売待機列には並ばない。
- 三、子供の体調や機嫌をよく見て、帰りがかったら予定を切り上げてでもすぐに帰る。
- 四、子供を成人向けが主なエリアに入らせない。
- 五、子供を独り歩きさせない。必ず迷子札とメディカルカードを持たせる。



●太陽なんか眩しくて…

夏コミと言えば熱中症に注意！という印象が強いかもしれないが、実のところ、特に一般参加者が直面する一番の難敵は直射日光による日焼けだ。日焼けは軽度のもので皮膚の痛みや火照りを引き起こし、重度になれば行動に支障をきたす。また、個人差はあるが薄曇りや上着を着けていても日焼けを負ってしまうこともある。対策のレベルは個人個人が決めなければならないが、全く対策の必要が無い、という人は多くはないだろう

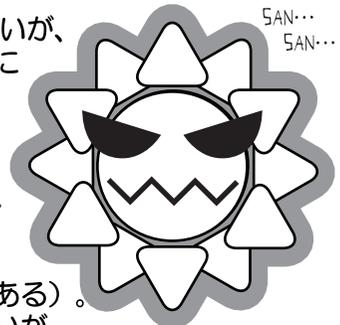
(例えば日焼けしない、慣れていて、という人でも直射日光を長時間同じような姿勢で浴び続けると体温が上がりすぎる危険がある)。

男性諸兄も日頃日焼け対策など考えたこともないかもしれないが、せめて首筋や肩を覆える日除け(大判のタオルなど)だけでも用意しておこう。また、乳液にしるウェットティッシュタイプにしる、日焼け止めは会期中に何度か塗りなおすことになるので、その分はきちんと用意しておこう。

サークル参加者であっても、シャッター付近はもろに直射日光が射し込んでくるゾーンがあるので、館内だからと油断せずに、自分のスペースの配置を再確認しておこう。

また、襟首や肩はもちろんとしても日焼けのダメージが意外とキツイのは下腕部から手首、あと特に女性には足だ。サンダル系の履物の場合日焼けしたところをストラップでこすられるととても痛いので、靴擦れ予防も兼ねて靴下を。

そもそもコミケットの環境下ではオシャレより安全が優先されるべきという観点からも、露出面の大きな素足やサンダルは全くもってオススメしかねる。



■■子供にはとてもキツイよコミケット■■

コミケット参加者の年齢層が上がっていくに従って子供連れでの参加者も増加傾向にあるようだが、高い気温と湿度、混みあった会場は幼い子供にとって非常に過酷な環境と言わざるを得ない。

会場内ではベビーカーは使用できないから子供も荷物も自分で運ぶしかないし、トイレも非常に混み合う。授乳やおむつを交換できる場所や、ゆっくり食事を摂ったり休憩させられる場所もほとんど無い。連れて来る側の親にとっても、極めて負担が大きいのだ。子供に振り回されたあげく親の方が先に体調を崩して動けなくなってしまうということも十分に考えられる。

コミケットはあくまでお祭り、楽しむ場であって、参加する義務があるものではない。親の楽しみのために”行ってみればなんとかなるだろう”という安易な考えで子供を会場に同行させ、様々な我慢を強いるのは、残念ながらエゴと誹られても仕方がない行為だ。

子供が乳幼児であれ小学生であれ、コミケットの会場に連れて来るのは本当に最後の選択肢としてほしい。もし万一のことがあった場合、自分の意志で参加している参加者以上に、**連れて来られた子供の事故は大事になる**、ということも頭に置いておく必要があるだろう。

そして、それでもどうしても連れて来ざるを得ないとしても、着替え、陽射しや暑さ対策、水分補給や食事の用意、疲労対策などをできる限り行い、その上で以下の五ヶ条を守るよう心がけ、できるだけ短時間で会場を出ること。我慢すべきは子供ではなく親の側なのだ。

●どうしても子連れ参加する場合の心得

- 一、朝食を摂らせ、できるだけ午後から来場する。
- 二、長時間に及ぶ販売待機列には並ばない。
- 三、子供の体調や機嫌をよく見て、帰りたがったら予定を切り上げてでもすぐに帰る。
- 四、子供を成人向けが主なエリアに入らせない。
- 五、子供を独り歩きさせない。必ず迷子札とメディカルカードを持たせる。



●太陽なんか眩しくて…

夏コミと言えば熱中症に注意！という印象が強いかもしれないが、実のところ、特に一般参加者が直面する一番の難敵は直射日光による日焼けだ。日焼けは軽度のもので皮膚の痛みや火照りを引き起こし、重度になれば行動に支障をきたす。また、個人差はあるが薄曇りや上着を着けていても日焼けを負ってしまうこともある。対策のレベルは個人個人が決めなければならないが、全く対策の必要が無い、という人は多くはないだろう

(例えば日焼けしない、慣れている、という人でも直射日光を長時間同じような姿勢で浴び続けると体温が上がりすぎる危険がある)。

男性諸兄も日頃日焼け対策など考えたこともないかもしれないが、せめて首筋や肩を覆える日除け(大判のタオルなど)だけでも用意しておこう。また、乳液にしろウェットティッシュタイプにしろ、日焼け止めは会期中に何度か塗りなおすことになるので、その分はきちんと用意しておこう。

サークル参加者であっても、シャッター付近はもろに直射日光が射し込んでくるゾーンがあるので、館内だからと油断せずに、自分のスペースの配置を再確認しておこう。

また、襟首や肩はもちろんとしても日焼けのダメージが意外とキツイのは下腕部から手首、あと特に女性には足だ。サンダル系の履物の場合日焼けしたところをストラップでこずられるととても痛いので、靴擦れ予防も兼ねて靴下を。

そもそもコミケットの環境下ではオシャレより安全が優先されるべきという観点からも、露出面の大きな素足やサンダルは全くもってオススメし兼ねる。



■子供にはとてもキツイよコミケット■

コミケット参加者の年齢層が上がっていくに従って子供連れでの参加者も増加傾向にあるようだが、高い気温と湿度、混みあった会場は幼い子供にとって非常に過酷な環境と言わざるを得ない。

会場内ではベビーカーは使用できないから子供も荷物も自分で運ぶしかないし、トイレも非常に混み合う。授乳やオムツを交換できる場所や、ゆっくり食事を摂ったり休憩させられる場所もほとんど無い。連れて来る側の親にとっても、極めて負担が大きいのだ。子供に振り回されたあげく親の方が先に体調を崩して動けなくなってしまうということも十分に考えられる。

コミケットはあくまでお祭り、楽しむ場であって、参加する義務があるものではない。親の楽しみのために”行ってみればなんとかなるだろう”という安易な考えで子供を会場に同行させ、様々な我慢を強いるのは、残念ながらエゴと誹られても仕方がない行為だ。

子供が乳幼児であれ小学生であれ、コミケットの会場に連れて来るのは本当に最後の選択肢としてほしい。もし万一のことがあった場合、自分の意志で参加している参加者以上に、**連れて来られた子供の事故は大事になる**、ということも頭に置いておく必要があるだろう。

そして、それでもどうしても連れて来ざるを得ないとしても、着替え、陽射しや暑さ対策、水分補給や食事の用意、疲労対策などをできる限り行い、その上で以下の五ヶ条を守るよう心がけ、できるだけ短時間で会場を出ること。**我慢すべきは子供ではなく親の側なのだ。**

●どうしても子連れ参加する場合の心得

- 一、朝食を摂らせ、できるだけ午後から来場する。
- 二、長時間に及ぶ販売待機列には並ばない。
- 三、子供の体調や機嫌をよく見て、帰りがたったら予定を切り上げてでもすぐに帰る。
- 四、子供を成人向けが主なエリアに入らせない。
- 五、子供を独り歩きさせない。必ず迷子札とメディカルカードを持たせる。



●太陽なんか眩しくって…

夏コミと言えば熱中症に注意！という印象が強いかもしれないが、実のところ、特に一般参加者が直面する一番の難敵は直射日光による日焼けだ。日焼けは軽度のもので皮膚の痛みや火照りを引き起こし、重度になれば行動に支障をきたす。また、個人差はあるが薄曇りや上着を着けていても日焼けを負ってしまうこともある。対策のレベルは個人個人が決めなければならないが、全く対策の必要が無い、という人は多くはないだろう

(例えば日焼けしない、慣れている、という人でも直射日光を長時間同じような姿勢で浴び続けると体温が上がりすぎる危険がある)。

男性諸兄も日頃日焼け対策など考えたこともないかもしれないが、せめて首筋や肩を覆える日除け(大判のタオルなど)だけでも用意しておこう。また、乳液にしろウェットティッシュタイプにしろ、日焼け止めは会期中に何度か塗りなおすことになるので、その分はきちんと用意しておこう。

サークル参加者であっても、シャッター付近はもろに直射日光が射し込んでくるゾーンがあるので、館内だからと油断せずに、自分のスペースの配置を再確認しておこう。

また、襟首や肩はもちろんとしても日焼けのダメージが意外とキツイのは下腕部から手首、あと特に女性には足だ。サンダル系の履物の場合日焼けしたところをストラップでこずられるととても痛いので、靴擦れ予防も兼ねて靴下を。

そもそもコミケットの環境下ではオシャレより安全が優先されるべきという観点からも、露出面の大きな素足やサンダルは全くもってオススメしかねる。

